

七 浜

第166号

福島県公立学校
退職校長会
いわき支部
発行責任者 一
宏集
沢 編集
七浜編集委員会

本号の主な内容

- 1面 いわき支部総会・懇親会
- 2面 賀寿・賀詞伝達の様子・支部組織
- 3面 県大会報告・支部組織続き
- 4面 新入会員の感想・歓迎の言葉
- 5面 新入会員の感想・私の楽しみ・方部の伝言板
- 6面 受賞の喜び・ご逝去を悼んで
- 7面 クラブ活動今年度の計画
- 8面 文芸

第59回 支部総会開催

事業計画の確実な推進を 目指して

街路樹のハナミズキの花が目立つようになった4月27日令和6年度第59回退職校長会いわき支部総会が来賓をお迎えし、椿山荘において開催された。

根本副支部長の開会のことは、続いて、国歌斉唱、物故会員への黙祷の後、支部長のあいさつ。沢支部長は祝受者へ祝意を述べた後、会員同士が5年ぶりに「直接出会える喜び」を語った。そして今年度も支部の3つの目標の具現に努力すること。特に学校現場を支援しようとする年立ちあげた「人材バンク」についてこれまでの経緯や成果について詳しい説明があった。私たち会員は、これまでの知識や経験を生かし、いわきの子どもの成長を支えてほしいと話

された。

続いて大平幹事から新会員の紹介があった。今年には役職定年を迎えた13名の方が入会してくださった。うれしい限りである。続いて、新会員を代表して鯨岡寛泰氏が入会のあいさつを述べた。これまでの支援への感謝を述べた後、今後はそれぞれのあゆみに努力していくことを力強く話された。

続いて記念品・感謝状の贈呈に移り、記念品は代表の佐々木澄子氏に贈られた。次に受賞者を代表して西山允雄氏からあいさつがあった。西山氏は謝意を述べた後、現在も関わっているボーイスカウトの子どもたちのことに触れ、知識は豊富だが体験不足や感性のなさをあげた。共感した会員は多いのではないか。



あいさつする内田市長

来賓祝辞を述べた内田広之市長は、いわきの教育の一端に触れ、

- ① 92校の小中学校を訪問し、その学校の現状や課題を把握し改善のためにデータ化している。
- ② 不登校が増えてきている。その対策としてチャレンジホームを2倍の8カ所に増やす計画を立てている。
- ③ 学習環境の整備として、特別教室の冷暖房整備の予算を確保したこと。夏の暑さが懸念される中、うれしい知らせである。
- ④ 特別支援教育の充実に向けて支援員を増員したこと。



議長の鈴木氏と中根氏

⑤ 児童・生徒がタブレットを持ち帰るようにし、個別の学習が出来るようになったことなどを話された。

来賓紹介の後、議事に入った。鈴木光男氏と中根孝雄氏が議長に指名された。議事はスムーズに進行し提案されたすべての議事が承認された。役員の改選も行われ、令和6年から7年の支部役員が、提案どおりに承認された。飯塚副支部長の閉会の言葉で総会は終了となった。




5年ぶりの 懇親会

祝受者のお祝いと新入会員の歓迎会を開催することが出来た。じつに5年ぶりとなる。

服部教育長の来賓祝辞、大竹教育事務所長の乾杯の音頭で開会。

テーブルを囲んでの会はみんなが待ち望んできたことである。会では、これまでの空白を埋めるかのように、たちまち談笑の輪が、いくつも出来た。話したい思い、聞きたい思いが伝わってくる。閉会の時刻になっても、その輪はなかなか解けなかった。参加された会員は、どんな思いを持ち帰ったことだろう。

おめでとうござい
長寿のお祝い



賀寿

内郷 蛭田 早苗氏
昭和4年3月22日生

3月22日、賀寿のお祝いに
方部を代表して松本伸一先生
とご自宅に行つて参りまし
た。先生は昭和4年生生まれの
95歳。現在は一人暮らしですが、
市内在住のお子さんが毎日の
食事など身のまわりのお世話
をされているとの事で、大変
元氣な様子でした。

賀寿

内郷 佐々木澄子氏
昭和11年3月11日生

3月11日、山野宣夫方部長
と共に佐々木澄子先生のご自
宅を訪問し表彰状と記念品を
お渡ししました。

佐々木先生から、現在、週
に2日デイサービスに通い2
日はプールで50メートル歩い
て、健康の維持に努めている
ことをお伺いし、とてもお若
いお姿に、なるほどと納得さ
せられました。先生は、田人

てお話をうかがいました。

先生の起床は早く、午前2
時、就寝は8時。日中は外出
や運動は控えめにしてお好き
なテレビを見て過ごしている
とのこと。また、健康面
においては、「現在、病院の
お世話になっていないし、薬
も服用していない」との事で、
穏やかながらしつかりした日
頃の健康管理が伺えました。
先生の益々のご健勝をお祈
り致します。

(内郷前方部長 山野宣夫)

賀詞

小名浜 根本 正氏
昭和11年3月30日生

令和6年3月30日に根本正
先生のご自宅を方部委員2名
でお伺いし、全国連合退職校
長会からの表彰状と退職校長
会いわき支部からの記念品を
ご本人へお渡ししました。
ご壮健で矍鑠としていらつ
しゃいました。健康に氣をお
遣いになり、食事はご自身で
準備なさり外食することはな
いとおっしゃっていました。

賀詞

平窪 遠藤俊博氏
昭和11年4月5日生

桜花爛漫の4月11日、平窪
方部退職校長会総会において
飯間康則会長から賀詞の表彰
状と支部の記念品をお渡しし
ました。

和やかな雰囲気の中、近況
報告では、病氣を患い、病院
通いや入院を繰り返してい
ましたが適切な治療により現
在は回復傾向にあることをお
話しくださいました。また、
現職時代の思い出では、よき

また、歯科医の先生から歯が
大変丈夫ですと褒められた
と聞いて、日頃の精進の賜物
ですと感心いたしました。

普段の生活は自分一人でも
できるそうです。日常は
悠々自適に過ごしながら現職
の頃を懐かしく回顧し、未来
に思いを馳せる日々を送って
いるそうです。これからも未
永くご健康でお過ごし下さ
いますことを祈念し、ご自宅を
後にしました。

(小名浜方部委員 鶴沼 淳)

先輩に恵まれ、「時間を守る
こと」や「教材研究をしない
とよい授業はできないこと」
等、教えられることがたくさ
んあったこと、小学2年生の
理科の授業を参観して子ども
たちが夢中で取り組む姿に深
い感銘を受け、「自分もこう
いう授業をやってみたい」生
まれ変わっても先生になりた
い」等の教育への熱い思いを
お話しくださいました。

先生の益々のご健勝を心か
らご祈念申し上げます。

(平窪方部委員 斎藤昭三)

令和6年度 いわき支部の組織

(令和6年6月1日現在)

顧問	阿部郁夫	高木 清
支部長	渡部祐亨	山内正衛
副支部長	賀澤裕三	鈴木雅之
支部長	増井健二	
支部長	沢 宏一	根本良政
支部長	武田幸子	
支部長	飯塚啓文	
支部長	小峰美保子	斎藤昭三
支部長	稲沼正雄	
支部長	沢 宏一	村田 哲
支部長	伊藤 紘	鈴木光男
支部長	福羽俊光	吉田一右
支部長	西山允雄	中根孝雄
支部長	坂本達夫	藤川整一
支部長	吉田豊彦	藤田秀平
支部長	川島秀隆	五十嵐讓
支部長	渡邊 隆	山口洋子
支部長	川口如洪	馬淵 章
支部長	笹川育正	高澤昭子
支部長	折笠文昭	鶴沼美枝子
支部長	村田 哲	金内三郎
支部長	高木典子	門馬 栄
支部長	武藤忠晴	櫛田祐子
支部長	比佐 功	神田 豊
支部長	森 均	大平好一
支部長	曾川孝規	鈴木廣美
支部長	平子宗司	小野則夫
支部長	村田 哲	

幹事長

第58回県大会(二本松)報告

6月12日、創立60年記念第58回退職校長会二本松大会が開催された。いわきからは、沢支部長ほか11名が出席。

鈴木福島支部長の開式のことばで始まった。富士寛樹大会会長のあいさつ、伊藤末吉大会実行委員長のあいさつに続き、ご来賓の県教育委員長(代理)二本松市長(代理)様にあいさつをいただいた。

講演は、二本松出身の画家大山忠作氏の長女、大山采子氏「生きることは描くこと、生きることは演じること」と題して父親と自身の考え方やエピソードを話してくださいました。

午後の体験発表では、いわきの代表として矢内金五氏が

「富士山の見える阿武隈の山々」について、体験を踏まえユーモアを交えながら楽しい発表をしていたいただいた。また忙しい中、

発表の骨子をまとめて頂いたの
で、掲載する。

富士山の見える阿武隈の山々

矢内 金五

はじめに

退職後、植田公民館で社会教育指導員として勤務していた時、勿来関文学歴史館から講演の依頼があり、吹風殿で行った。二本松大会では、沢支部長の推薦でこの講演内容を発表することになった。

一 阿武隈高地のプロフィール

① 老年期の山が多く、中通りから眺めると、なだらかな山陵が続いているが、浜通りからは屏風のような山が南北に連なっている。この地形は阿武隈高地の東側が数回にわたり隆起し、東流する河川の浸食が復活して深い谷ができたためである。

② 阿武隈高地を構成する地質は古い花崗岩で風化を受けていて、日山や大滝根山には広い裾野が広がっている。一方、水石山や湯ノ岳は硬い岩石のため風化が遅れ、独立した残丘が見られる。

二 富士山が見える北限の日山

富士山からは北東で距離は約

300kmで、撮影した所は日山の山頂である。二本松市岩代支所制作のカレンダーに掲載された。

私は10月下旬に、田沢口から登り、頂上には約1時間で到着した。当日は天候に恵まれ、紅葉を眺めながら散策した。頂上には三つの神社があり、展望台に登ると、西に那須の山々、南に鎌倉岳が目に入った。

三 富士山の見える三株山

この山は、いわき市と古殿町の境にあり、いわきからは田人町貝泊から入る方が便利である。数年前に廃校になった貝泊小

中学校を目標に車を進め、峠を下ったあたりの三叉路を右折する。道なりに進むと草原が広がり、山頂入り口を示す木製の看板がある。そこを左折すれば目的地に到着することができる。

山頂には展望台があり、富士山の見える方向や眺められる時期を説明した掲示板も設置されている。

日山から見た富士山に比べれば、三株山から見た富士山の方が美しい。

富士山の見える二つの山を紹介したが、世界遺産の富士山に比べれば、若さやスタイルの面

で人を引き付ける魅力は弱いようである。

しかし、阿武隈の山々の中には、地球の長い歴史の中で一度も海底になったことのない所があり、そのため地球の「生き証人」として日本列島の成り立ちを探るヒントを提供してくれてもいる。

これまでも阿武隈の魅力に惹かれ、多くの学者が河川争奪やペグマタイトなどの研究を行い、地質学の発展に貢献してきた。

まさに、阿武隈は自然を探究する科学者にとって「母なる大地」である。

今後、阿武隈の地質や地形の研究から、優秀な科学者の出現を希望している。

その後、閉会となった。次期開催は、来年6月10日、南会津



いわきからの参加者

田遠	勿	常	小	三	好	内	川	小	四	平	方	会	会	庶
人野	来	磐	名	名	間	郷	前	前	倉	●	部	報	計	務
●折笠文昭	●馬渕章	●関内健	●吉田幹男	●吉田兼光	●吉田哲哉	●佐藤哲哉	●佐藤正則	●佐藤正則	●野木謙三	●荒川良治	●印は方部代表	委員	委員	金内三郎
(2名)	(37名)	(35名)	(42名)	(15名)	(29名)	(29名)	(7名)	(27名)	(27名)	(令和6年6月現在)	委員	委員	委員	門馬 栄
	笹川育正										●	委員	委員	高木典子
											●	委員	委員	武藤忠晴
											●	委員	委員	比佐 功
											●	委員	委員	神田 豊
											●	委員	委員	大平好一
											●	委員	委員	鈴木廣美
											●	委員	委員	小野則夫
											●	委員	委員	鈴木廣美
											●	委員	委員	平子宗司
											●	委員	委員	高木典子
											●	委員	委員	鈴木廣美
											●	委員	委員	鶴沼美枝子
											●	委員	委員	丹 美枝
											●	委員	委員	佐藤正則
											●	委員	委員	滝 英長

竹の会報のるまじ感志

今年度は役職定年を迎えた13名の新会員を迎えることができた。次のステージでの活躍を期待するとともに、本会にも積極的に関わってほしいと願っている。

お世話になります

大平 孝憲

この度、退職校長会に入会させていただきました。現職中は、多くの皆様に支えられ感謝の気持ちでいっぱいです。現在は、緊急スクールカザールを兼務して勤めさせてい

ただいております。

(前小名浜第三小学校校長)

いつのまにか定年

緑川 幸則

初任者研修指導教員として第二の人生をスタートしました。いつの間にか定年を迎えていました。役職定年のため、正式には退職していませんが、半端な状態での入会ですが、どうぞよろしくお願い致します。

(前泉北小学校校長)



歓迎！新入会員の皆様

副支部長 飯塚 啓文

令和6年度、13名の新入会員の皆様を迎え、退職校長会いわき支部は36名でスタートしました。会員一同心より歓迎いたします。

コロナ禍や社会の急激な変化に伴い複雑化する教育課題を抱える中、皆さんが最前線

で学校経営に取り組んでくれたことに深く敬意を表します。

互いに協力し合い、会員相互の交流をはかるとともに、学校や地域の子どもたちの成長を支援し、本会を発展させていきましょう。

健康第一

加藤 満福

役職定年を迎え4月から湯本第三小学校でお世話になっております。健康に留意し本当の定年までしっかり勤務したいと思えます。自分の年齢、体力を考えて行動することが大切だと日々実感しております。

(前植田小学校校長)

感謝と喜び

久保田高行

現在、特例任用校長として、遠野小学校に勤務しています。学校再編の前後、継続して関わることができ、感謝と喜びで一杯です。遠野小学校ができてよかったと、子どもたち、そして保護者に思ってもらえるよう全力を尽くします。

(前上遠野小学校校長)

新たな気持ちで

松本 仁志

4月に特例任用校長として湯本第三中学校に着任いたしました。これまで支えていた

だいた方々に感謝し、新たな気持ちで学校経営に邁進していきたいと思えます。退職校長会の皆様、今後ご指導よろしく願います。

(前平第二中学校校長)

校長会の力

西丸 賢

以前コロナ禍真最中の折、中体連会長を拝命し、対応に苦慮していた時に一番の頼りとなったのは校長会でした。お世話になった先輩方との交流を大切にし、恩返しをしていきたいと思っています。

(前中央台南中学校校長)

入会にあたって

西田 英実

玉川中学校で社会科の授業をICTを試しながら新鮮な気持ちで学び直しています。まだ退職の実感はまだありませんが、「園芸クラブ」に入会させて頂き、早速行動を始めました。皆様と趣味を広げていくのを楽しみにしています。

(前草野中学校校長)

感謝の気持ちで

鯨岡 寛泰

この3月に役職定年を迎えましたが、現在、特例任用校長として湯本二中に勤務しております。

これまで多くの先輩方に支えていただいたこと、そして4月からの新たな出会いに感謝の気持ちで過ごす毎日です。(前小名浜第一中学校校長)

子どもたちのために

玉澤 淳

※現在、カナダのバンクーバー補習授業校で、活躍中とのことです。(前植田中学校校長)

思春期の子どもとともに

丹野 英雄

役職定年を迎えましたが、特例任用校長として玉川中学校に勤務させていただき、これまでと同じく思春期の子どもと向き合って生活しています。

今後も与えられた使命と職責を自覚しつつ残された教員生活を全うしようと思っております。(前勿来第一中学校校長)

新たな気持ちで

佐川 一夫

特例任用校長として草野中に勤務しています。新しい環境で新たな気持ちで、過ごしております。今後も、いわきの子どもたちのため、地域のため、先生方のために、微力ではありますが、尽力していきたいと思っております。

(前上遠野中学校校長)

教材研究に追われる日々

齋藤 文字

お世話になります。

新人類と言われた初任者が役職定年を迎えました。まだ、現役なので複雑な心境です。8種類、18時間の授業と大卒初任者の指導。久々の教壇でどちらが初任なのか分からない充実した毎日です。

(前いわき光洋高等学校校長)

御礼

酒井 正隆

皆様方には、在職中、様々な場面で大変お世話になりました。

今後は今まで以上に地元の

方部の伝言板

61

「変わりゆく小川」

——小川・川前方部——

佐藤 正則

2020年の台風19号で大きな被害をもたらした夏井川の大規模河川工事は、小川町の雰囲気を変えています。

川幅を3倍ぐらいにしているので、川の両岸にあった竹林がほとんどなくなりまし。小川町は夏井川を挟んで旧小川村と旧夏井村の一部が合併して小川町となりましたが、夏井川両岸の竹林が視界を遮っていたため、風景も気持ちも分断されたままです。

現在、視界が開け、見えなかつたものが見えるようになり、雰囲気が明るくなったように感じます。

もう一つ大きく変わったの

ために活動していきたくて思いますので、今後とも皆様からのご助言をよろしくお願いたします。

(前磐城農業高等学校校長)



は、町のシンボルとなつていた磐城東線小川郷駅舎が元の約8分の1の小さな待合室のみの駅舎となったことです。旧駅舎は開業当初のままの木造平屋建てで鉄道ファンには人気があつたのですが、やむを得ないのでしょう。ただ、JR東日本も小川町の特徴を考え、駅舎の壁を草野心平が好きだった色「群青色」にしました。「群青」は小川中学校校歌の一節に使われています。駅前には小川中学校美術部がデザインした心平蛙も鎮座していて、心平色が強調さ

れています。

当方部は、10年近く会員と学校が減るばかりで、思うような活動ができない状態が続

いていますが、残っている3つの小中学校を少しでも盛り上げられればと模索している状況です。

私の楽しみ

——童謡館を花で飾る——

下山田 和順

社会貢献と声高に言わなくても、取り組んでいる会員がいる。今回もそんな会員の活動を紹介したい。

「青い眼の人形」「赤い靴」「しゃぼん玉」など多くの童謡を作詞した野口雨情は4年8年までの4年間で湯本温泉で生活している。雨情は4年に33歳で離婚して、2児との親子3人での生活はその後の作家活動への充電期となっている。「野口雨情記念湯本温泉童謡館」は童謡を通し地域住民や観光客との心の交流、童謡が流れる町づくりを目指して平成20年に開館した。故里見庫男氏が蒐集した雨情の直筆書幅や童謡資料を展示し、また雨情関連の書籍・童謡商品・絵はがき等の販売をしている。その童謡館の玄関を少しでもきれいに飾りたいと思

いていますが、残っている3つの小中学校を少しでも盛り上げられればと模索している状況です。プランターに季節の草花を植える活動を開館してから続けている。パンジー、ペコニア、マリーゴールド、葉ボタンなどを出来るだけ種から育てるようにしている。しかし天気や病気・害虫などで移植できるまでに大きく育てるのが難しい。日々の水やり雑草とりなどは童謡館の皆さんの協力もあり感謝している。気候変動が激しい昨今は、過酷な条件の中できれいに花が咲いた時には本当にうれしくなり、花にも感謝の気持ちでいっぱいになる。来館した人達から「花がきれいですね」と言っていたので、励みに続けていきたいと思

受賞の喜び

「奨励賞」を頂いて

滝 英長

昨年、私は小説の部門で「幸せの紅い靴」により吉野せい賞奨励賞を受賞しました。

学生時代、筆を取った事はあつたものの、還暦を過ぎた今では、小説を書くのは、もう無理と諦めていたのですが、一昨年市で開催された松村栄子さんの文章教室に参加したことで、もう一度書いてみようという気になりました。というのもこの会を企画運営をしていた文化交流課や

吉野せい賞運営委員会の皆さんが、吉野せい賞を盛り上げていこうとしているのと共に

市の地域活性化を図ろうと、頑張っている姿を目にして、自分なりに応援歌を送れないかと思つたからです。そこで思い浮かんだのが、昭和30年頃のいわき市の姿でした。当時は石炭採掘の最盛期であり、何をするにも手間が掛かり、贅沢なんかできなかったけれど、町も人々も活気に溢れ、向上心に燃えていた時代でした。そんな姿を浮き彫り

にすることで、東日本大震災以来、次々に起き上がる諸問題によって、へこみそうになつていっているいわきの人たちに、昔の活気ある、人の心が通ういわきの町の姿を思い起こさせることはできないだろうかと思ひ、書いてみたのが今回の小説です。

この話は、亡くなった母のことをモデルにして書いた話です。書いている間は、「こうだったよね。」というように亡き母と会話しているようで、懐かしい思いにかられ、楽しい一時でもありました。

現在、この小説は「風舎」という同人誌に掲載され、書店で販売されています。この雑誌は「吉野せい賞」を受賞した作品を18年間も載せ続け、吉野せい賞の名を地域の皆さんにも知つて貰おうと地道に活動を続けてきた雑誌なのです。それにも関わらず、あまり知名度がないのが、残念でなりません。機会があれば、ぜひ書店で手に取っていただけたらと思つています。



いわきの総合文藝誌
風舎
第18号
第46回 吉野せい賞 準賞受賞作品
奨励賞受賞作品
青少年特別賞受賞作品
夏の風物詩「おんがら念仏踊り」(いわき市)
令和6年 文藝風舎

ご逝去を悼み心からご冥福を祈ります

故 針金 作次先生

誕生 昭和9年2月12日 逝去 令和6年1月17日



故 三星 賢二先生

誕生 昭和15年3月12日 逝去 令和6年2月3日



故 目黒昇一郎先生

誕生 昭和12年9月18日 逝去 令和6年2月16日



故 松本 和夫先生

誕生 昭和9年6月23日 逝去 令和6年2月27日



故 橋谷田光雄先生

誕生 昭和9年8月1日 逝去 令和6年5月11日



クラブ活動12月の計画

楽しみがあるということ
は、元気に生きる源であると
言われる。クラブで、はつら
つとした姿を見せているとこ
ろが、うかんでくる。

園芸クラブ

部長 矢内 金五

今年度は役員を一新し、60
代の新会員2名を迎え、10名
でスタートしました。総会は
5月19日いわき公園で開催し
6月、7月、9月の研修会で
は菊苗の配布とベテラン会員
3名の名人から御指導をいた
だきます。又、会員が自宅で
育てた菊を持ちより研修を深
めます。その成果は11月の菊
花展で披露します。

退職校長会のスローガンで
ある「老いを楽しむ」にぴつ
たりのクラブです。花咲か爺
さんをめざして、「みんな仲
よく」を合い言葉に頑張りま
す。



旅行クラブ

部長 片寄 善勝

今年度は、昨年度より2名
減の14名での発足です。
5月13日、草野公民館で総
会を開催し、活動計画等につ
いて話し合いをしました。主
な活動内容は、年2回(初夏、
秋)の旅行です。
初夏旅行は、6月3日〜4
日「天下の名湯・草津温泉」
の観光バスツアーに参加して
実施します。

秋の旅行は、11月頃予定し
ています。9月上旬に観光会
社のチラシを見て決定しま
す。ツアーに便乗するので、
安い料金で手軽に旅行できま
す。

囲碁クラブ

部長 伊藤 紘

今年度はクラブ内の役員の
改選がありました。前年度
同様の9名でスタートです。
例会は月3回、木曜日に

行っています。軽口をたたき
ながら楽しく対局していま
す。

活動は、年4回のクラブ内
の大会(教育長杯、クラブ長
杯、市長杯、チャンピオン杯)
で、優勝者にはトロフィー、
盾、賞品が与えられます。更
に、勝率8割以上の優勝者に
は昇段(クラブ内のインフレ
段)することが出来ます。

最大は、8月に行われる県
大会の代表者決定戦です。A
級(段位者) B級(級位者)
それぞれ2名が出場します。

船釣りクラブ

部長 高羽 博樹

今年度も、休部中とのこと
同好の士、募集中。

絵画クラブ

部長 西山 允雄

昭和43年以来、生活に美と
潤いを求めて、絵を描き続け
ているわが絵画クラブは16名
の会員を擁して活動が始まっ
た。

活動内容は年々充実し、月
1回の例会は、それぞれ割り
当てられた担当者が計画を立
む!

てる。例えば画材が甲冑や漁
網など多彩で面白い。人物写
生は多方面からモデルを選定
する。今年は懇親会を兼ねた
1泊写生旅行を計画できな
かったのが残念である。

年1回の展示会には、それ
までに書きためていた作品を
展示する。今年は9月27日か
ら10月2日まで開催。

ゴルフクラブ

部長 若松 榮一

5月16日(木)、ハワイア
ンズGCで今年度最初のコン
ペを開催し、総会も行った。
今年度は26名(いわき19名・
双葉7名)での活動となった。
今後の例会コンペ予定コー
スは次の通り。

- 6月湯本スプリングスC
 - C・7月小名浜CC・9月塩
屋崎CC・10月ヘレナ国際C
 - C・11月サラブレッドGC・
3月バイロンネルソンCC・
4月小名浜オーシャンGC。
- 実施日は、いずれもその月
の第3木曜日。

「明るく、楽しく、元気よく」
ゴルフを楽しみ、老いを楽し
む!

ターゲットバード ゴルフクラブ

部長 江尻 元茂

5月8日、草野公民館で総
会を開催し、活動計画や今後
のあり方について検討した。
会員の高齢化や体調などを
熟慮した結果、今年度末で愛
称「鳥友会」を廃止にするこ
とを決定した。

本年度も、毎週水曜日の定
例会やコンペ、食事会などを
通して、会員の健康保持や親
睦を第一に考えながら活動を
進めていきたい。

月面にふわりと降りた宇宙
船、それに着想を得た日本人
が、手軽にゴルフを楽しむ方
法として考えた「制御翼付ゴ
ルフボール」、それがTBG
の始まりです。

クラブ長会において、
クラブ活動の活性化につ
いて話題になったとい
う。新しいクラブの創設
が待たれるところでもあ
る。やってみたいことあ
りませんか?仲間を募っ
てみませんか?

文芸欄

随想

ざれど5分

大森 俊輔

このごろ妙に気になることがあります。それは授業時間が5分短くなるかもしれないということ。

先生は毎日の授業の中で、子どもたちに課題をとらえさせ、その解決に向けて調べ、考え、話し合い、まとめるための時間を確保してあげなければなりません。また考えられる力身につけさせるために

様々な工夫もします。似ているところや違うところを見つけさせたり、これまで学んだことや体験したこと結びつけて考えさせたり。課題を解決するための手立ても考えてあげなければなりません。

その中でも苦労するのが子どもたちが考える場や活動する時間をどのようにして確保するかということ。子どもたちにすれば、じっくりと考え、それをまとめたり、友だちと話し合ったりする時間がほしいのです。

こうなると気になってくるのが短くなりそうな5分間。「たかが5分なのに」と言われるかもしれませんが、「ざれど5分」なのです。

心閑楽 有餘

孝道

書

「心閑楽有餘」

心閑楽有餘 南宋 葉夢得

中根 孝雄 (孝道)

(読み)

心閑にして、楽余りあり

(解説)

心がのどかで雑念がないと、尽きない楽しみが生ずるものだ。

絵画



残雪の穂高連峰 (F8号 油彩) 坂本 高

3月の上高地の風景を描きました。梓川周辺のケショウヤナギが残雪の光を浴びて紅色に輝いていました。

短歌

矢内 孫次

廃校

少子化は学舎無くし唯残る想い出だけのあの日あの時

木蓮

木蓮はピンクの花を身に付けて黄緑に映えしつかりと咲く

想ひ茫茫

阿部 良全

僻校の津島 玉野に六年ぞ

共に廃校 暇を去らず

辰年の九十六歳 生きてゐる

我が道還らせ歌を詠みつ

俳句

木村 秀子

在りし日の野良着の母よ

青田波

ネモフィラの花天の青

落ちしごと

風

伊藤 弘子

磯節の唄声のびし花菜風

黒南風の沼のさざなみ

幾何模様

川柳

志賀 英信

登下校 子等のあいさつ

励ましに

墓移し 新任の地で

百めざす

編集後記

夏休みの話題が増えてきているが、今年も炎暑になるとの予想である。これから先が思いやられる。会員の皆さんは、対策を考えておられるだろうか。真つ先に思い浮かぶのは、エアコンの使用だろうか。電気料金などを考えると思い悩む場面も多いようだ。また環境面を考慮しての方も多いことだろう。ともあれ健康面にはくれぐれも気をつけたいものである。さて会員の皆さんに考えてほしい。それは編集委員の交代についてである。現在の編集委員は、5年以上担当している会員が多くなってきた。これまでも改革案を提示してきたが、思うようにいかなかった。真剣に考えてくださっている方が少ないと言ったことか。残念である。新しい力の加入を待っている。